

- 1 報告地区 : 函館
- 2 事例報告学校名 : 函館市立中の沢小学校
- 3 報告者職・氏名 : 校長 野橋知哉
- 4 キーワード : 学ぼう ふるさと なかのさわ (地域と連携した総合的な学習)

## 認定NPO法人北の森と川・環境ネットワーク×中の沢小学校 ふるさと再発見 「にんにく沢探検隊が行く！」

函館市立中の沢小学校は函館市の北西、七飯町との境界に近い、海拔 60 メートルほどの丘陵地帯に位置しています。校舎からは、大野平野の広がりや函館裏夜景を見ることができます。本年度は、13 学級 400 名でスタートしました。

子どもを取巻く教職員、保護者、地域の大人が一体となって、「チーム中の沢」として、共育を推進しています。

### 中の沢の自然は 深くて広いぞ

函館市と七飯町の境界を南西に流れる蒜沢川(にんにくざわがわ)。函館市域の最高峰である袴腰岳(1,180.3m)などからの湧水を水源とする幅 5 メートルほどの小さな川です。本校に近い上流部は、ほぼ自然河川の状態が保たれ、河畔林、溪畔林が緑の回廊を形成しています。

貴重種を含む植物や絶滅危惧種のニホンザリガニなどの水生生物、クマガラなどの鳥類やエゾリス等の哺乳類も多く生息しています。

一步河畔に足を踏み入れると、その豊かさに心躍ります。



沢ぐるみの種を手に  
植生を説明する指導者

### 学社連携 学びの意欲を促進する総合的な学習

認定 NPO 法人北の森と川・環境ネットワーク (GRNet) は、郷土樹種での河畔林再生事業を通して、蒜沢川及びその流域の豊かな自然を守る活動をしている団体です。↑

「拓く・磨く・輝く」  
保護者力・地域力・学校力を結集した中の沢小の教育

本校では、総合的な学習の時間の目玉として GRNet と連携した環境学習を実施しています。

### 自分を見つめ 地域と関わる

本校の総合的な学習の時間の目標は、「地域の人・もの・ことに進んで関わり、自ら問題を見付け探求していく活動を通して、自己のよりよい生き方を考えることができるようにする」。

他者と進んで関わり、学んだことを表現し、自分の生活や生き方を考えることのできる子どもの育成を目指して進めています。



河畔林を分け入って奥へと進みます



沢登りの途中で丸木橋を渡ります

## 教員の資質向上

学年ごとの主な体験内容は GRNet と本校職員の数回にわたる事前打ち合わせで決定します。

- ▶3年-河畔林・水生生物観察  
沢登り
- ▶4年-河畔林・水生生物観察  
沢登り  
圃場の草取り
- ▶5年-苗木の掘出し  
植苗体験
- ▶6年-植苗体験 河口観察

## 中の沢の自然の素晴らしさを心に刻む

### 驚きいっぱい 初体験の連続

にんにく沢体験の最中、子どもたちは、GRNet の方々からレクチャーを受けます。その一言一言が心に刻まれていきます。

「ここには、絶滅危惧種に指定されているニホンザリガニが生息しています。ニホンザリガニは、水温が20度以上になると生きてはいけないうんだよ。この川の周りに生えている木々は水温の上昇を抑える役割もしているんだよ。」

「これはエンレイソウ。とても貴重な植物です。発芽してから実がなるまでに10年もかかるんです。だから歩いて行くときに踏みつけないように気を付けて。」

「沢ぐるみは、このプロペラみたいな種を飛ばして子孫を残します。鬼ぐるみとは全然違うね。」

指導者のこんな話を聞いて、ますます彼らの目は輝きます。子どもにとっては貴重な学習体験となっていますし、GRNet の方々にとっては自分たちの活動を広めると同

時に大事な学習成果の発表の場となっているのです。

### 「今日、学校を 休まないでよかった。」

子どもたちに「生きる力」を育むためには、自然や社会の現実に触れる実際の体験が必要です。具体的な体験や事物との関わりをよりどころとして、感動したり、驚いたりするのです。さらに、「なぜ、どうして」と考えを深める中で、実際の生活や社会、自然の在り方を学んでいくのです。



甘酸っぱいやマガワの実

そして、そこで得た知識や考え方を基に、実生活の様々な課題に取り組み、自らを高め、よりよい生活を創り出していくことができるのです。

## 児童の感想（3年）

- ▶川に初めて入りました。ザーツという川の音がきれいでした。石がつるつるしていました。
- ▶木がたくさん生えているところに行くと森のおいがしました。
- ▶自然がおいしかった。
- ▶僕は、オニグルミの木を探すのが好きになりました。
- ▶今日、学校を休まないでよかった。
- ▶川の水がこんなに冷たいなんて初めて知りました。

## 地域の力を学校に 校長の役割

未来を担う子どもたちの豊かな学びを支えていくためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を自覚し、連携・協力することが必要です。今回紹介したような質の高い体験活動も学校だけで実施しては十分な教育効果は得られませんし、学校としての役割を果たしているともいえません。学校は地域のへそとなり、地域の一員として教育環境づくりを進めていく必要があると考えています。

保護者・地域と共に創り上げる中の沢の共育はこれからも力強く進みます。